

経営比較分析表

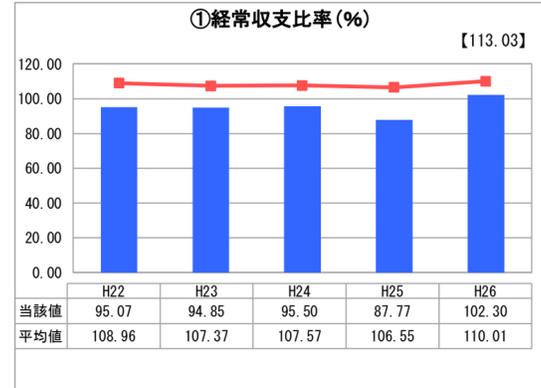
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	66.51	99.25	2,862

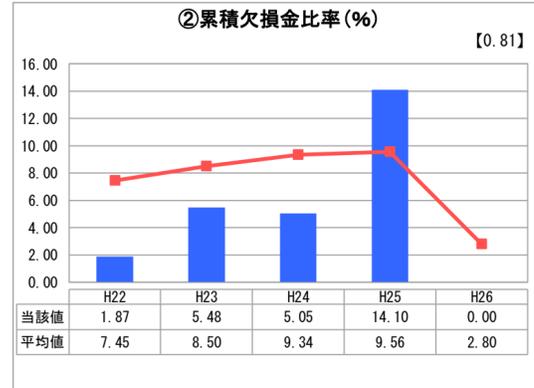
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
18,965	89.45	212.02
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
18,741	34.86	537.61

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成26年度全国平均

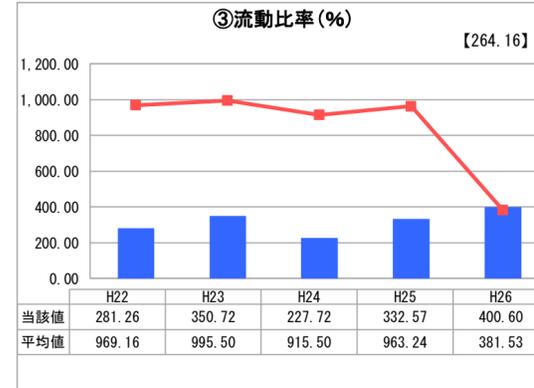
1. 経営の健全性・効率性



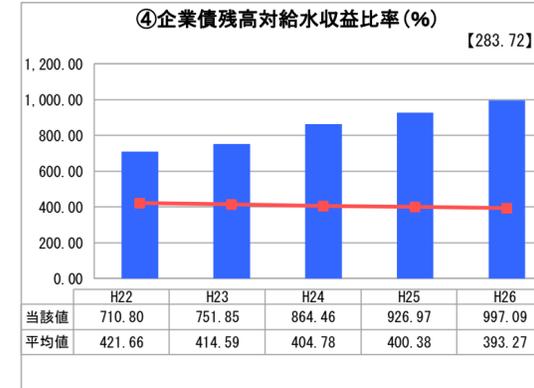
「経常損益」



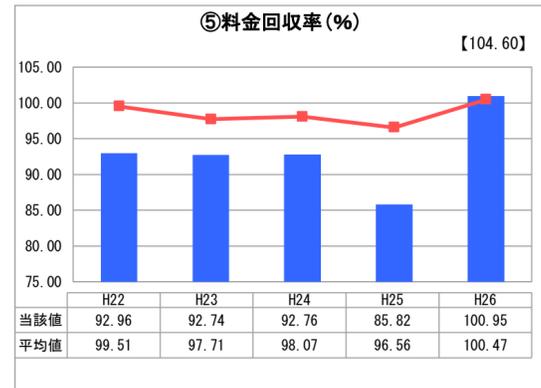
「累積欠損」



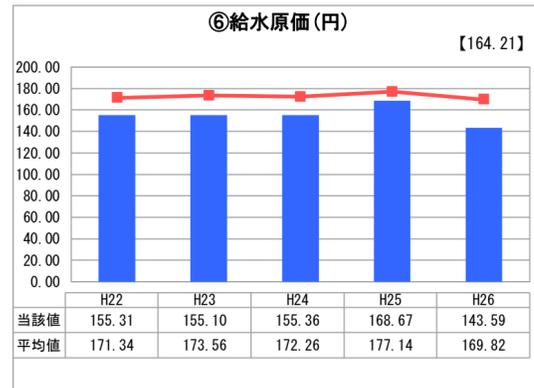
「支払能力」



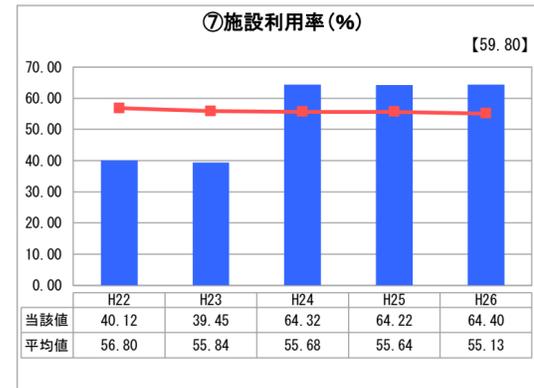
「債務残高」



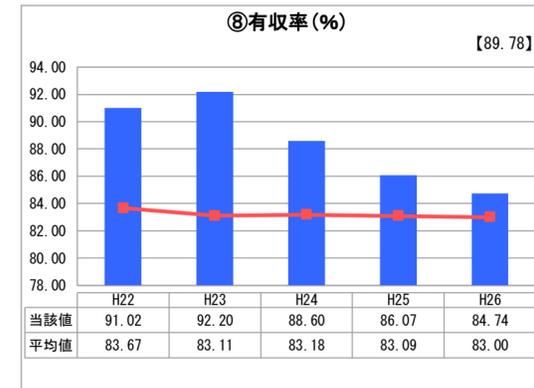
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

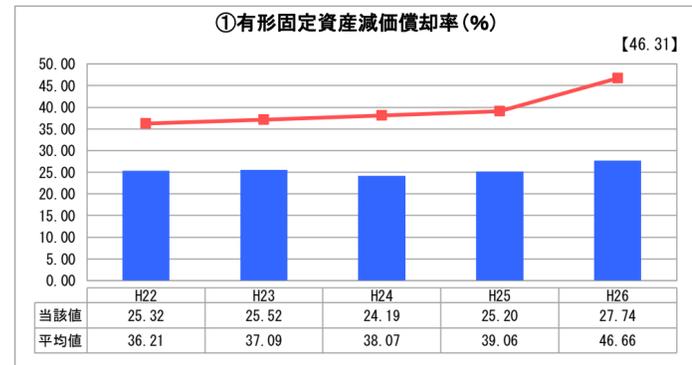


「施設の効率性」

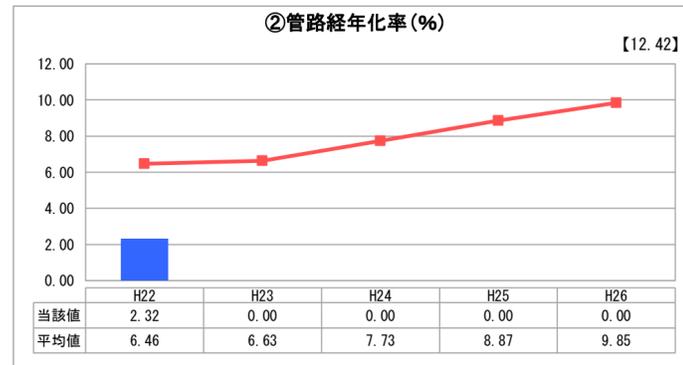


「供給した配水量の効率性」

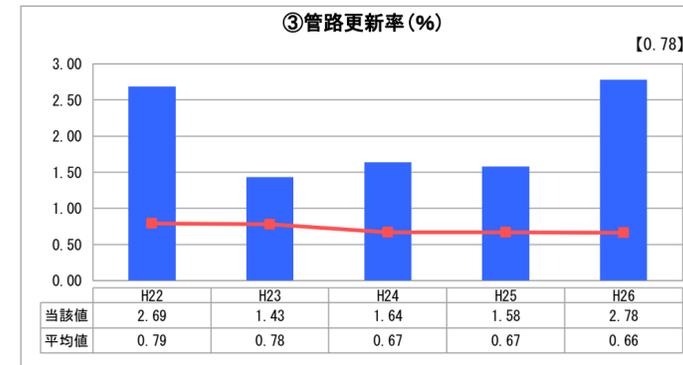
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：H25以前は若干の赤字で推移していたが、H26以降は黒字で推移していくと見込まれる。
- ② 累積欠損金比率：H26以降は欠損金は発生しないと見込まれる。
- ③ 流動比率：微増もしくは横ばいで推移していくと見込まれる。
- ④ 企業債残高対給水収益比率：年々増加が見受けられるが、投資規模は適正と判断出来る。
- ⑤ 料金回収率：H26以降は給水収益及び繰出基準内の繰出し金で賄われると判断出来る。
- ⑥ 給水原価：H26以降は横ばいで推移していくと見込まれる。
- ⑦ 施設利用率：H22の施設統廃合によりH24以降は横ばいで推移していくと見込まれる。
- ⑧ 有収率：老朽管更新事業等による配水管布設替工事等で使用した作業用水量の増加や漏水等が有収率低下の原因と考えられる。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：ほぼ横ばいで推移しているが、管路経年率及び管路更新率からもわかるように、保有資産の更新が適正と判断できる。
- ② 管路経年率：法定耐用年数を経過した管路はなく、管路の更新が適正と判断できる。
- ③ 管路更新率：H26以降も横ばいで推移すると見込まれ、投資規模は適正と判断できる。

全体総括

経営の健全性・効率性及び老朽化の状況それぞれを見ても、ほぼ適正な水準を保っていると思われ、有収率に関しては低下で推移していることから、保有資産の投資による低下が原因と思われる。また、漏水によるものも原因の一つと思われることから、今後は漏水への対策も講じる必要があると考える。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。